

日本医師会 会長 松本 吉郎



日本医師会会長の松本吉郎でございます。

本日、ご来賓の高市早苗内閣総理大臣を始め、多くの皆様のご出席の下、第14回「日本医師会 赤ひげ大賞」の表彰式を遂行させていただきますことを心より感謝申し上げます。

本賞は、各地域に根付き、その地域の住民に寄り添いながら、医療現場で地道にご尽力されておられる先生方にスポットを当て、その功労を顕彰したいとの思いで平成24年に創設し、このたび14回目を迎えることができました。

今回の受賞者である5名の「赤ひげ大賞」の先生方、そして20名の「赤ひげ功労賞」の先生方はいずれも、これまでの受賞者と同様、地道に、そして献身的に医療に従事されてきた方々ばかりです。医療を超えた患者さんとの信頼関係を築き、地域を守ってこられたことに改めて敬意を表します。

また、地域住民を守るため、昼夜を問わず働き続けるかかりつけ医をはじめ、在宅での看取りや緩和ケアに取り組んだり、へき地医療や予防医療、多職種連携、被災地支援といった活動に尽力したりするなど、まさに地域医療の多様性を投影したのが、今回の赤ひげ大賞の特徴だと思います。年齢を見ても、50代から90代と幅広い世代が受賞されたことも特筆すべき点です。今後も多様な視点から、赤ひげ先生を選んでいきたいと思えます。

さらに、これからの時代に目を向けますと、わが国の高齢者数がピークに達する2040年に向け、「治す医療」だけでなく、「治し、支える医療」の重要性が今後ますます高まります。患者さんが住み慣れた地域でいつまでも健やかに暮らせるよう、医師には時代とともに変化する医療ニーズに柔軟に応える必要もあります。

日本医師会としても引き続き、本賞を通じて、こうした医師の活動を顕彰し、支えることで、地域医療の充実に寄与して参ります。

結びとなりますが、改めまして、ご協力頂きました都道府県医師会の皆様に感謝いたしますとともに、共催の産経新聞社、ご後援の厚生労働省、フジテレビジョン、BSフジ、特別協賛頂きました太陽生命保険株式会社を始め、本事業の実施にご尽力頂きました方々に、心より御礼申し上げ、私からのあいさつとさせていただきます。

受賞者の先生方、本日は誠におめでとうございました。